

ふてしこ

7 '17
No.254

巡回通信誌



明治天皇
出典 ウィキペディア

「ソーシャルインクルージョン」

院長 林田 良三

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、今回は私達大分県済生会日田病院が属しております恩賜財団済生会のことを少し、お話させていただきます。

表題にいたしましたソーシャルインクルージョンというのは1990年代、ヨーロッパで障害者、刑余者、失業者、ホームレス、移民などの社会的弱者の排除が進むなか、この問題を解決するための社会の在り方を示す理念として生まれた言葉です。日本語では「社会的包摂」という難しい言葉で訳されています。

社会的弱者を排除せず、大切な人的資源と考え、社会参加や経済的自立を支援し、誰もが住みやすい社会にしようとする理念（考え方）です。ソーシャルインクルージョンという言葉が日本で最初に紹介したのは恩賜財団済生会理事長の炭谷茂氏です。

恩賜財団済生会は明治44年、明治天皇の勅命により設立されました。そしてその設立理念はこのソーシャルインクルージョンの原点といってもいいかもしれません。当時、日露戦争の戦勝国となった日本は好景気に沸き、いわゆる「成金時代」を迎えていました。一方で多くの軍人やその家族の犠牲のうえに成り立った好

景気は極端な格差社会をもたらしました。貧富の差は拡大し、貧困者の生活はさらに困窮、瀕死の病気であっても医療すら受けられない状況でした。このような世情を憂いられた明治天皇は明治44年2月11日、時の総理大臣、桂太郎氏をお呼びになり、「済生勅語」にお手元金、150万円を添えて下賜されました。済生勅語のなかで、明治天皇は「無告の窮民」（みずからの窮状を告げることができない民のこと）に「施薬救療」（無償で薬を与え、治療を施すこと）を与え、「済生」（生命を救うこと）の道を開くようにと述べられています。これが恩賜財団済生会の始まりです。このような無告の民を救い、人的資源としての社会参加を支援していくことは日本の国力に寄与することでもあったはずで

2016年を振り返ってみますと移民排除や異教徒排除の思想が根底にある「イギリスのEU離脱決定」、「トランプ氏の米大統領選勝利」などの出来事がありました。また国内では優生思想（障害者を社会から排除する思想）により、障害者19人を殺害するという信じがたい事件もありました。世界でそして日本で社会的弱者や少数派を排除しようとする思想が台頭してきているように思えてなりません。現代社会が抱える格差社会や貧困の問題、日本が迎えている超高齢化社会の問題は社会を支える働き手不足を内包する問題でもあります。ソーシャルインクルージョンの理念に基づく施策は社会を支える人的資源を生み出すことにもなります。政府が唱える「一億総活躍社会」がこのソーシャルインクルージョンの理念のもとに進んでいくことを望んでいます。

今や恩賜財団済生会は全国で381施設（うち79病院）、59,000人の職員を擁する医療・福祉団体となりました。そして恩賜財団済生会はこのような時代にこそ、その存在価値があるものと思います。医療・福祉の分野でソーシャルインクルージョンの理念のもと社会を支えていくことが恩賜財団済生会の一員である我々の役割と考えております。

